

A BRAND NEW CHAPTER @ KOCHI
TOSABUSHI

とさぶし

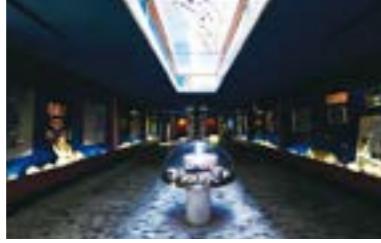


No
29



誇り高き —

土佐の
名建築




誇り高き 土佐の名建築







地域とともに 歴史を刻み続ける 建築物にまつわる ストーリー

土佐の町並みにとけ込み、気候風土に親しみながら、長きに渡り地域に愛されてきた建築物。当時の時代背景や地域性、建物の持つ使命が落とし込まれた建物は千差万別で、そこにまた、人の手が加わることによって、建物の個性が活きていく。これは、高知の人、風土、産業と共に生きて、今も尚、途絶えることなく歴史を刻み続ける「土佐の名建築」にまつわる物語。ストーリーを知ると建物から見えてくる景色も変わる。

Tosa's famous architecture

連載	絶景にて人と出会う	P23
特集	土佐が語り継ぐ祭	P22
	日曜日のTOSAレシピ	P20
	プライムトーク	P18
	集落を訪ねて～大学生がゆく～	P16
	読者プレゼント	P14
	お宿	P12
	茅葺	P10
	酒蔵	P08
	旧病院	P06
	ギャラリー	P04
	誇り高き 土佐の名建築	P03

とさぶし29号の登場人物

 土佐市「高岡日曜市」の責任者を務める島崎佳子さん	 「農家レストランくさぶき」の女将を務める上田知子さん	 「濱川商店」で4代目の蔵本を務める濱川尚明さん	 室戸岬で「岬観光ホテル」を営む千頭夫妻
 香美市土佐山田町にある「聖建築研究所」の一級建築士・山本直子さん	 「安田まちなみ交流館・和」の支援員を務める竹内裕美さん	 「西岡酒造店」で10代目の蔵元を務める西岡大介さん	 文化交流施設「すさきまちかどギャラリー」の館長を務める川鍋達さん
 集落活動センター「だんだんの里」の代表を務める大野孝美さん	 「鳴無神社」の宮司を務める森田鉄典さん	 「吉井勇記念館」の館長を務める山中幸三郎さん	 「松尾酒造」で7代目の蔵元を務める松尾禎之さん

お宿

長い歴史が
観光客の心に
郷愁を誘う



部屋の2方を縁側が囲む、現在では取り入れることのできない工法。扇状に象れた木材がレトロ感たっぷり。

1 美馬旅館

1891年(明治24年)創業、四万十町窪川の町宿として栄えること128年の歴史を刻む。現存する本館は昭和12年の建築。2018年より、6代目・美馬勇作さんが継承。

住所／高岡郡四万十町本町3-4
☎/0880-22-1101

明治、大正、昭和、
受け継がれること6代
創業1891年(明治24年)、美馬
家の家業として代々受け継がれ、
128年の歴史を刻んできた老舗旅
館。四万十川ブーム、お遍路ブームと
時代のニーズに応え、窪川の町宿とし
て栄えた。館内には、作家・林英美子
や、元首相・吉田茂など、数々の文人
や財界人の直筆の書が残されてお
り、長い歴史を重ねてきた貫禄がそ
かここに。床材は栗の木、壁は土壁、
天井は一本の木からわざかしか採れ
ない高価な「柾目」の木材を、要所に
は四角く特殊加工を施した竹の柱を
採用。窓ガラスや障子の腰には、今で
は入手困難なモザイクガラスが張り
巡らされ、建築当初の贅を尽くした
併まいが残されている。創業当初の明
治の建物は解体され、現在の建物は
昭和初期以降のものとなるが、明治
時代より美馬家に受け継がれた先代
の審美眼が、家具、照明、掛け軸な
ど館内の随所で生きている。「ガラス
1枚割れても買い替えの出来ない貴
重なものばかり」という若女将の言葉
通り、今は無き職人技を感じる建築
材が至る所で風格を漂わす。



太平洋を臨む海岸にボツリと佇む建築当初のホテル。台風の影響を直に受けやすそうな立地条件が見てとれる。

2 岬観光ホテル

岬観光ホテル

建物の誕生は1933年(昭和8年)。資産家の別荘として建てられ、1935年にホテルとして開業。多くの所有者がバトンを繋ぎ現在に至る。2019年3月には、高知県の宿泊施設で初めて登録有形文化財に認定された。

住所／室戸市室戸岬町4037 ☎/0887-22-0541



室戸に甚大な被害をもたらした2度の室戸台風にも倒れず、80年余り。周りの建物が倒壊する中、被害をまぬがれ、その命を繋いできた奇跡のホテル。室戸岬が国定公園に指定される30年前よりこの地で歴史を刻み、窓から溢れんばかりの絶景を宿泊客に届けてきている。建築当初の経緯は諸説あるものの、資産家の別荘として建てられ、ある文書では野村茂久馬がホテルとして開業したと記述されている。昭和中期には筆山荘の別館として栄えた時代もあった。現在、ホテルを営むのは、「もっと多くの観光客に室戸へ来て欲しい」「美しい景色と美味しい料理を届けたい」との思いで引き継いだ千頭夫妻。ホテルの敷地そのものが国定公園であるため、持ち主であろう環境下において、近年の度重なる台風の上陸と、苦労も耐えないと、庭の草木一つ無断で手入れできない時代もあった。現在、ホテルを営むのは、「もっと多くの観光客に室戸へ来て欲しい」「美しい景色と美味しい料理を届けたい」との思いで引き継いだ千頭夫妻。ホテルの敷地そのものが国定公園であるため、持ち主であろう環境下において、近年の度重なる台風の上陸と、苦労も耐えないと、そのものの息吹が、お客様を温かく出迎えているように思っています」とその魅力を教えてくれた。

新たな
使命を持つ
リノベーション

館長川鍋達さん

贅を尽くした商家建築
今なお重厚感をもつて
須崎の街角に健在



昭和初期に撮影された三浦商店。旧道交差点の角地に立ち、町の発展に大きく寄与した。(須崎市教育委員会提供)



竜串貝類展示館 海のギャラリー

1966年(昭和41年)竣工。設計は女性建築家のパイオニアと言われる林雅子で、画家の黒原和男が収集した世界の珍しい貝類を展示する施設。1993年に改修工事がされたが、基本構造は当時のまま健在。



建築して間もない頃に撮影された西側外観。2つの屋根が構造的に完全に分かれていることがハッキリと分かる。

住所／土佐清水市竜串23-8 ☎/0880-85-0137



女性ならではの感性が光る 二度と真似できない ハイセンスデザイン

1967年(昭和42年)に開館した「海



のギャラリー」は、土佐清水市出身の画家・黒原和男が収集した、学術的価値の高い貝を含む約3千種類5万点を展示する世界的にも珍しい貝類展示館。設計したのは、女性建築家の故・林雅子で、それまで主に住宅設計を手がけていた彼女にとって初めての公共物であり、そして代表作となった。その特徴は随所に見られ、例えば巨大なコンクリート2枚をアクリルで接合した屋根。頂部は繋がつておらず、その間から差し込む光がスリット状のトップライトとなって館内に差しこみ、まるで深海にいるような幻想的な雰囲気を演出。他にも屏風折りのような折半構造や、片持ち梁で支えられた階段など、特徴を挙げればキリがない「今造るうど思つても再現できないほどすごい造り」と同業者も舌を巻くほど。竣工後数十年は改築・改修などされておらず老朽化による存続の危機に見舞われたが、夫だった建築家の故・林昌一や、地元建築家たちの働きかけで1993年に改修工事を行い、再び観光名所として蘇り多くのファンを魅了し続けている。



すさきまちかどギャラリー

三浦商店として、1916年(大正5年)頃に建てられた、高知を代表する商家建築。2010年、文化交流施設としての活用がスタート。2014年には大規模な修繕に加えて台所や浄化槽、庭にめれ縁を設置した。

住所／須崎市青木町1-16 ☎/050-8803-8668



3

Tosa's famous architecture

事業を行い繁盛した須崎の有力商家・三浦商店。二面黒塗りの外壁が印象的な旧店舗部分は、木造二階建ての塗家造と高知県では代表的な商家建築だ。主屋には土佐特有の良質のヒノキ丸太、表門にはケヤキ材を使用するなど良材を多用、また西洋を感じさせるデザインを取り入れたりと、当時の最先端とされた。長らく空き家だった建物が再び息を吹き返したのは2010年のこと。須崎の様々な地域資源を活用し、須崎の魅力を知つてもらうための文化交流施設「すさきまちかどギャラリー」として活用されるように。企画展や地域の伝統文化を取り上げた展示、また新たな視点から須崎の魅力を探るためのプロジェクト「現代地方譚」を開催するなど、県内外から注目を集めている。2014年には大規模な改修が行われ、建物の修繕に加えて新たな設備も増設され、活用の幅に広がりを見せており、「地域の文化振興と歴史の掘り起こしの拠点となるよう」にと川鍋館長の言葉通り、須崎を支えてきた商家が今、別のかたちで地域を支える代表的な場所として健在している。

酒蔵

歴史ある土佐の
酒造を代表し
登録有形文化財に

100年以上の歴史を刻む酒蔵

高知県内各地に点在する土佐酒の蔵元は、現在18蔵。それぞれが長年に渡って独自の日本酒造りに励んできた。歴史が育んだ日本酒はもちろんだが、その酒造り出す酒蔵の佇まいもまた、時を刻んだ味わい深さがあり、町の景観に趣を重ねる。中でも、中土佐町の「西岡酒造店」、香美市「松尾酒造」、田野町の「濱川商店」は創業100年以上を誇る。今では松尾酒造と濱川商店は国の登録有形文化財となつており、修繕を施されながらも現役として今も数多くの銘酒を生み出している。

西岡酒造店に至つては江戸時代中期の1781年（天明元年）創業から約240年。途方も無いほどの



西岡酒造店

創業約240年、現存する酒蔵では県内最古となる。蔵は見学することができ(10~3月以外)、そこかしこに残る当時の風景が歴史の重みを感じさせてくれる。天井に設置された滑車は今もなお現役。併設のギャラリーでは、実際に使っていた道具や昔ながらの備品、現存する帳場などを展示している。

7
Tosa's famous architecture

住所／高岡郡中土佐町久礼6154 ☎/0889-52-2018



壁や天井など、創業から変わらぬ姿を残す箇所がそこかしこに。江戸時代から続くその歴史に触れてみて。

10代目蔵元 西岡大介さん

濱川商店

「美丈夫」で知られる、明治37年創業の「濱川商店」。2015年に登録有形文化財となった蔵は、土蔵造ならではの漆喰や数多くの窓、さらに土佐の蔵の特色である多段に廻らせた水切瓦など、当時の面影が色濃く残った姿を拝むことができる。蔵のすぐそばに今年建築された社屋などとの新旧コントラストも楽しい。

6
Tosa's famous architecture

住所／安芸郡田野町2150 ☎/0887-38-2004



かつての主力銘柄「濱乃鶴」は、創業者の濱川金太郎が浜辺に飛来した丹頂鶴との出会いをきっかけに命名。

4代目蔵元 濱川尚明さん

松尾酒造

黄色いラインの外壁が印象的な「松尾酒造」は、明治6年創業。東に面した小道を北に入ると、登録有形文化財の認定を受ける、漆喰塗壁の蔵と煉瓦造りの外堀が織りなす紅白のコントラストや、重厚な表構えをなす母屋がお目見え。事前予約にて、蔵や貴重な物品を展示した資料室などを見学することもできる。※時期により対応不可

5
Tosa's famous architecture

住所／香美市土佐山田町西本町5-1-1 ☎/0887-53-2273



昭和初期の外観。塗り直しなどはされているものの、外壁は当時の姿を保っており、なんとも味わい深い。

7代目蔵元 松尾禎之さん

時間が流れる中でもその姿を保ち続け、江戸時代当時の町屋を思わせるような外観と共に、木や竹、土などで作られた壁や天井など、歴史的建造物たる風景を数多く残す。一方で、共に明治時代に創業された松尾酒造と濱川商店の蔵は、壁に漆喰が施された土蔵造が特徴で、松尾酒造は敷地を囲む印象的な外壁や蔵の隣にある昭和時代に建てられた事務所なども良い味を出している。濱川商店は酒蔵の景観を活かすように造られた社屋や倉庫などが並んでおり、レトロさとモダンさがうまく共存したコントラストが印象的。各蔵では自慢の日本酒の販売や試飲、さらに蔵の見学(濱川商店は不可)などの実施を行なっているので、それぞれの景観と共に、お酒の味を比べる小旅行に出てみるのも愉しい。

茅葺

時代を超える
日本昔話の
世界へ…



吉井勇記念館
館長 山中幸二郎さん

歌人吉井勇の心を
味わい深い茅葺の草庵

香美市の物部川沿いを上流へ、山峡
の閑静な村・猪野々にある吉井勇記念
館の側に「渓鬼荘」を見つける。多くの
アーティストが歌声を重ねてきた名曲

「ゴンドラの唄」で知られる、昭和の伯
爵歌人・吉井勇が隠居生活を送った山
房だ。吉井の高知での生活を支援した
のが伊野部酒蔵の伊野部恒吉であり、
彼の酒蔵にあった隠居所をもらい受け

たのがこの草庵のいわれ。都會育ちの
吉井は、四方を山に囲まれ、郷愁さえ
感じるこの風景に心惹かれ、この草庵
をとても愛した。「渓鬼荘」は、猪野々
の牧歌的な景色によく馴染む厚みと

丸みを帯びた茅葺き屋根の小宅で、6
畳の居間と4畳半の書斎、広縁からな
る簡素な建物だが、天井や床の落掛の
造作など風情溢れる数寄屋造りの様
相を見ることができる。農村の静かな
この場所で独り3年間を過ごした吉
井は、移住前、自身の妻が関与した「不
良華族事件」による傷心をひつそりと
癒し、「猪野々は人間修行の場であつ
た」と言葉を残している。その当時に、
ここで生まれた歌も多数あつたと吉井
勇記念館の山中館長は教えてくれた。

8

そうあん けいきそう
草庵 渓鬼荘

伊野部恒吉の隠居所を貰い受け、猪野沢温泉横に移築。吉井勇が1934年(昭和9年)から約3年間をここで過ごす。2006年(平成18年)、記念館横に移築し、吉井の愛した炉、自在鍵、茶釜を展示。2014年、登録有形文化財に認定。

住／香美市香北町猪野々514
☎／0887-58-2220

11 女将 上田知子さん



雪深い梼原町では、雪も落とせて冬
は暖かく夏は涼しい茅葺屋根の家
が一般的だった。

農家レストランくさぶき

Tosa's famous architecture
9

母屋となる民家は、1870年(明治3年)、小民家は1941年(昭和16年)、集会所は1867年(明治元年)に建てられたものを、1983~1985年に太郎川公園に移築。2019年2月には母屋の屋根の吹き替えが行われた。

住／高岡郡梼原町太郎川13799-3 ☎／0889-65-0500



女将 上田知子さん

割に屋根が非常に大きい。それは「日本昔話」の1シーンながら。その迫力は訪れる観光客を圧倒する。

天井が高く急傾斜、家屋の大きさの割に屋根が多い梼原町の茅葺屋根は、吉井が高く急傾斜、家屋の大きさの割に屋根が非常に大きい。それは「日本昔話」の1シーンながら。その迫力は訪れる観光客を圧倒する。

天井が高く急傾斜、家屋の大きさの割に屋根が非常に大きい。それは「日本昔話」の1シーンながら。その迫力は訪れる観光客を圧倒する。

天井が高く急傾斜、家屋の大きさの割に屋根が非常に大きい。それは「日本昔話」の1シーンながら。その迫力は訪れる観光客を圧倒する。

旧病院

欧風文化に
憧れた
大正時代へ回帰



サロンドウレプリュ salon de LES PLUS

1925年(大正14年)、県内最初期の鉄筋コンクリート造建築「織田歯科医院」誕生。2015年、「salon de LES PLUS」オープン。2017年、主屋と堀がそれぞれ登録有形文化財に認定。

住所／高知市升形4-14 ☎/088-879-5095

1925年(大正14年)、県内最初期の鉄筋コンクリート造建築「織田歯科医院」誕生。2015年、「salon de LES PLUS」オープン。2017年、主屋と堀がそれぞれ登録有形文化財に認定。この歴史ある建物で昔ながらの婚礼の魅力を大切にした、1日1組限定のオリジナルウェディングを提案している。2017年には登録有形文化財の認定を受け、建物の価値を再認識する機会を得た。

歯科医院から結婚式場へ
新たな使命を宿して



新築当時の織田歯科医院。洋館が立ち並ぶ神戸や横浜の異人館ながら、長きに渡り地域に愛された。

安田まちなみ交流館・和

大正初期に病院として建てられた「旧市川医院」と、大正から昭和初期の土佐東部の建築様式で建てられた「旧柏原邸」。それぞれ2008年に安田町に寄贈され建築当初の復原に向け着工。2010年に完成。

住所／安芸郡安田町大字安田1674-1 ☎/0887-38-3047



修復前の2軒。昔の病院の面影を残した洋風造りの「市川医院」と、土佐の近代和風建築の特徴が伺える「柏原邸」が軒を並べる。

馬路の魚梁瀬をはじめ、周辺の森林から採れる木材の集散地として、多くの商人が訪れ栄えた安田町には、当時の趣を感じる建築物が町の随所で見受けられる。その中でも、登録有形文化財に認定される「安田まちなみ交流館・和」は、和風建築と洋風建築が織りなす大正ロマンな佇まいに見惚れる。これは、「安田町の歴史が詰まったこの建物を、町内外の人達と繋がる交流拠点にしよう」と誕生した町営の施設。その思いに賛同した持ち主の寄贈によって復原工事が着工され、2010年に完成。外観に洋風医院建築様式を取り入れた「旧市川医院」と、魚梁瀬の天然木材と土佐漆喰をふんだんにあしらった「旧柏原邸」、2つの建物が一体となり類稀なる景観を創り出している。また、建物の各所で見られる匠の職人技は、既に継承が途絶えたものも多く、壞れたら修復不可能。「この施設は安田町が商人の町として栄えた当時の様子や建築技術を残した貴重な宝物。この施設の魅力を多くの人に感じてもらいたい」と支援員を始め、多くの町民らの支えによって大切に守られている。

Tosa's famous architecture

11



13

支援員 竹内裕美さん

12

絶景にて 人と出会う

Spot
07

土佐の宮島とも呼ばれる
おとなし
じんじや

鳴無神社

西暦460年代に創建され、横浪三里を見守ること1550余年。

1663年(寛文3年)に、第2代土佐藩主山内忠義によって再建された本殿、
拝殿、幣殿が国の重要文化財に指定されている。

入江に面した鳥居が「土佐の宮島」と称される所以。

時代を経ても変わらない美しさがそこにはある。



ゆっくりと見てください!
朱印状も書いていますよ。



宮司
森田鉄典さん

祖父の代から神職に携わっており、「鳴無神社」の宮司は、浦ノ内の神社全20社の総代からの承認を受け就任。夏に行われる「一言主大神」の舟遊びや秋の感謝の祈りを捧げるチリヘッポなど、季節ごとに行われる大祭をしきたりに則り取り仕切っている。

古来より変わらぬ佇まいと景色に心癒される
1550余年以前より神が住まう鎮守の社
永い間、「神のおわす地」として、人々の訪れを見守ってきた同社だが、「土佐の宮島」と形容されるほどその景観は美しく、入りこんだ浦ノ内湾は静かな波のさざめきを見ることができる。日が昇る午前中は水面がキラキラ輝いて反射し周辺が白やんとどみのない美しさに包まれ、夕暮れ時には鳥居の向こうに覗く虚空蔵山を照らした

夕暮れ時にきてください!
朱印状も書いていますよ。

夕日のオレンジが清楚な本殿まで伸びて、えも言われぬ幻想的な風景へと趣を変える。
現在、この由緒ある社殿を受け継ぎ守るのは、宮司を務める森田さん。この静かで穏やかな地でじつと多くの参拝客を出迎えてきた。「以前は無かつた須崎市道も神社まで延びて訪れる人も増えましたが、この景色は何も変わりません。いにしへから人々がそうしたように、海風に吹かれ、一言主大神に愛された横浪三里と呼ばれる景色を眺め、ここで心をほぐして欲しい」と、訪れる人の幸せを願う。

縁結びの神としても名高い社殿には、近年、県内外から女性を中心に参拝客が増加。縁結び

を神に祈り、おみくじで運勢を試し、海に向かってシャッターを切る、そんな光景を目にする機会も増えた。森田さんは最後に「鳴無神社」ならではのこんな楽しみ方を教えてくれた。「ここにおみくじは水に溶けるから、おみくじに想いをしたためて海に流してください。きっと英気が養われますよ」。

雛人形が町を彩る春祭り

吉良川町並みひな祭り

●室戸市吉良川
●2月29日(土)～3月3日(火)

毎年桃の節句前、吉良川の住宅約80軒が雛飾りを行う風情溢れる春祭り。それぞれの家に伝わる雛人形を展示する他、雛行列や、竹雛作り、出店などの様々な催しで賑わいを見せる。



LINE@でも
情報配信中!



(1) QRコードを読み込み
「とさぶし」と友達になる



(2) 記事の閲覧や
プレゼント応募、
最新情報を受け取れる



古来より木材の集積地として栄えた室戸市吉良川地区は、ウバメガシを使った良質の土佐備長炭を产出、その交易によって町は栄え活気に満ちた。町内にはそんな当時の様子が伺える商家や民家が建ち並ぶ。多くの土佐漆喰や水切り瓦などを施した立派な建物で、今も尚その美しさを留め、1997年には国的重要伝統的建造物群保存地区として選定を受けた。この町並みを守るためにできることはいかと始まったのが、「NPO法人吉良川町並み保存会」が主催する「吉良川町並みひな祭り」だ。古民家に雛人形を飾るというユニークなお祭りを思いついた前会長の細木さんは、「あちこ

里山に咲く花や、生き物のさえずり…、巡りゆく季節のありのままの姿の美しさが、土佐山にある。地元に暮らす人々は、そんな土佐山をよくな愛し、山間集落にある少子高齢化、過疎化といった問題にも、明るく楽しく立ち向かっている。そんな土佐山地区で「土佐山嫁石梅まつり」が誕生したの

始まりは「人の花咲かおじさん」里山に咲く花や、生き物のさえずり…、巡りゆく季節のありのままの姿の美しさが、土佐山にはある。地元に暮らす人々は、そんな土佐山をよくな愛し、山間集落にある少子高齢化、過疎化といった問題にも、明るく楽しく立ち向かっている。そんな土佐山地区で「土佐山嫁石梅まつり」が誕生したの



今では吉良川自慢の
一大イベント

地域に住む人々に開催の承諾を得て、一軒一軒呼びかけを行なった結果、1998年のスタート当初、3軒だった参加家数も少しずつその数を増やし、今では約80軒。着飾った地元の子供達が町並みを歩く「雛行列」や、竹を使った「竹雛作り」



「NPO法人吉良川町並み保存会」細木敏美さん

高知に春を運ぶ土佐山のお祭り

土佐山嫁石梅まつり

●高知市土佐山中切嫁石
●2月22日(土)～3月15日(日)※予定

1991年、住民の交流を目的として始まり、2020年で30回目を迎える。香りの際立つ「鶯宿」や写真映えのする「白加賀」「紅梅」など可愛らしい梅の花が美しく咲き誇る。



土佐

が語り継ぐ
古き良き伝統文化を後世に伝えるべく
奔走する祭り人達の想いや胸の内にせまる！

「梅まつり実行委員会」の鎌倉さんと事務方である阿久津さんは、今後の展望についてこう語る。「令和2年に開催される祭りで30回目の区切りを迎える。その間、オーベルジュ土佐山も誕生し、県内外問わず多くの人々に土佐山の素晴らしさを届けてきました。今後も祭りを通して更なる飛躍を目指し、世代を問わず楽しめる土佐山を創っていくたいですね」。2月には村人でチームを組んで庁舎や市内の商店街に梅の枝を持つPRに行くとうお2人、高知に春の訪れを告げる先遣隊となりそうだ。

村の発展を託して

「梅まつり実行委員会」の鎌倉

倉さんと事務方である阿久津

さんは、今後の展望についてこ

のこもつたお祭りだ。

と成長し、2020年で30回目を数える。一人ひとりの小さな力を合わせて祭りを成功させたことをにより、いつしか村人達に「自分達ができる」という想いが目覚め自然と意識改革できた。土佐山に暮らす人々にどう

何でもやってみよう」という想いが目覚め自然と意識改革できただ。土佐山に暮らす人々にどう

のワークショップ、老人会で作る「つるし雛」、住民グループのグルメ販売など新しい取り組みも増えた。近年では、高知大学、高知工科大学、高知県立大学の学生有志が集まる地域活性化団体「Sun-n-fes」によるボランティアも加わり、その活動は町並み保存に留まらず、地区の観光資源と若年層の活躍の場として成長している。今や吉良川地区の枠を超えて、安芸市、田野町、奈半利町、北川村、安田町、馬路村も巻き込み、「土佐の町家ひな祭り」へと成長。高知県東部に春を呼ぶ大イベントとして盛り上がりを見せる。



「土佐山嫁石梅まつり実行委員会」実行委員 鎌倉寛光さん(右)
事務方を務める「オーベルジュ土佐山」阿久津初夫さん(左)

土佐市の買い物事情を 伝統ある日曜市

「ドラ」「、広場」の西通りで毎週日曜の午前中に開催されている「高岡日曜市」。

50周年を迎える伝統の曜日市であり、3ヶ所目となる現在の場所に移つてからは約30年。今は出店が1列に並んで展開されているが、かつては3列に約60もの店が並び、お客様でごった返すほど盛況を呼んでいた時代もあった。「私が出店するようになつたのはこの通りで開催され

るようになつてからですが、昔は臨時に店を出したいという人が島崎さんは当時を振り返る。現在加盟しているのは15店舗ほどで、毎回10店舗ほどが出店。当時ほどの盛り上がりは無いものの、どれも地のものがたっぷり、

出店のキャンセル待ちをするぐらいで、本当に人がいっぱいでした」、日曜市の責任者を務める島崎さんは、「本当に人がいっぱいです」と、市民の台所として重宝されている。



今回のテーマ
人とのふれあいいかい
西日本胡麻味の
小さな日曜市
winter

日曜日の TOSAレシピ

場所を変えながら長きに渡って開催してきた
土佐市高岡の日曜市。
出店者お手製、旬の地魚を使った
「トンゴロイワシのお寿司」を伝授!



100m弱の通りの中に、色々なお店が並ぶ市場。毎週日曜の朝5時半頃から11時頃まで開かれており、8時になると売り切れとなる商品もちらほらと。日によっては臨時の出店などもあり、毎週通っても楽しい。店主との会話もこの市の醍醐味。

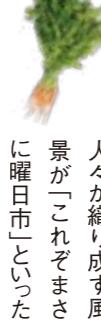
会場／土佐市高岡町甲
☎／088-852-7679
(土佐市未来づくり課)

100m弱の通りの中に、色々なお店が並ぶ市場。毎週日曜の朝5時半頃から11時頃まで開かれており、8時になると売り切れとなる商品もちらほらと。日によっては臨時の出店などもあり、毎週通っても楽しい。店主との会話もこの市の醍醐味。



並んだ商品をじっくり眺めつつ、店主と世間話をしながら買い物を楽しむ。そのやりとりはこの市ならでは。

味わい深さを感じさせてくれる。訪れるお客さんも常連さんが多く、「この前はありがとう」なんて顔なじみである店主とのやりとりも聞こえてきて、心がほっこり。じっくりと商品を吟味しながら、ゆったり買い物を楽しめるので、掘り出し物を探しに市外からでも訪れたくなる。日曜の朝を、日曜日の食卓を、より良い時間にしてくれる穴場な日曜市を土佐市で見つけた。



これぞ曜日市といった風景が今も現存するその雰囲気も楽しんで鮮魚や干物、野菜、果物、お茶、お寿司、生花など多岐に渡る出店者は、「母から引き継いで店を出している」家族や兄弟で商品を販売している」「創業当時から商品を販売し続けていた」「自家製の野菜を販売している」と十人十色で、色とりどりの食材や加工品と、その奥に座る人々が織り成す風景が「これぞまさに曜日市」といった。



地元で花屋を運営しており、日曜は市で花を販売する山崎さん。リンドウやシクラメンなど、季節の花が並ぶ。



「鳴川みかん」と呼ばれる温州みかんのほか、時期によって文旦や小夏などを揃える桜木さんの店。



姉弟2人で出店。お姉さんの高橋さんはお茶をメインに、弟の前田さんは自家製のたくあんなどを販売している。



完成したのがコチラ!



旬の地魚「トン哥ロイワシ」。鱗ごと揚げて食べる事が多いが、酢にしきり漬け込んで寿司ネタにするレシピを日曜市の責任者である島崎さんが教えてくれた。他にも自分で釣った魚やイタドリなどの加工品を販売している。

素材を活かした味わい

トン哥ロイワシのお寿司

材料

トン哥ロイワシ	4匹
お酢	魚が浸る程度
寿司酢	10cc強
お米	半合
生姜	少々
ごま	少々

手順1
トン哥ロイワシを丸のまま約1週間ほど酢に漬けて保存する。

手順2
酢漬けにしたイワシを手で割いて皮や中骨などを取る。

手順3
ご飯に寿司酢や生姜、ごまを加えて混ぜる。

手順4
イワシと酢飯を握って完成!

トトロイワシを丸のまま約1週間ほど酢に漬けて保存する。

酢漬けにしたイワシを手で割いて皮や中骨などを取る。

ご飯に寿司酢や生姜、ごまを加えて混ぜる。

イワシと酢飯を握って完成!



撮影当日に出店していた皆さん。長年日曜市で販売してきたベテランが多く、優しく迎えてくれた。

プライムトーキー

土佐の文化を受け継ぐ者たち

高知の風土に育まれた「土佐人」たちは、今日もそれぞれの分野から「土佐の風」を発信 そこに新たな文化を重ねながら



【プロフィール】
高知市出身。学校を卒業した後は東京の設計事務所で3年間勤務。27歳の時に高知へ戻り、父・恭弘さんが所長を務める「聖建築研究所」に入り、住宅、店舗、公共施設などのほか、古民家のリノベーションも手がけている。

「残したい」と思われる家づくりを そして新たな建築物への挑戦

直子さんの父・恭弘さんが1975年に立ち上げた「聖建築研究所」は香美市土佐山田町に所在。住宅、店舗、公共施設の設計や工事監理業務、そして古民家のリノベーションなどを手なっており、山本家の家族3人ともう1人、計4名の一級建築士が在籍している。「大きな建築には社会に影響を及ぼす力があります。仕事を依頼された際は、施工者の希望や思いをかたちにすることはもちろん、周辺環境との調和も意識しています」。また、事務所として使用している建物は建築100年を超える古民家をリノベーションしたもので、2002年にはギャラリー「樹下の舎(こしたのや)」を作設。木でできていることの強みを活かして、壁を抜いたり、新たなスペースを作つてみたりと、室内のレイアウトを自由に変えながら大切に使用されている。「家は、残したいという家族の思いがあり、きちんと手入れをすれば100年以上持ります。私も『残したい』と思つてもらえるような家をつくつていけたら」。高知に帰ってきて約15年、これまで主に住宅を手がけてきた直子さんが、今から約4年前より大きな公共施設の建築に携わっていた。工事は2019年秋に終わり、いよいよ施設「つなーで」

2020年春にオープンする、土佐市の複合文化施設「つなーで」。直子さんが、東京の建築設計事務所と一緒に設計を手がけた。

「つくる」と「守る」を並行

いつかは叶えたい思いを胸に

直子さんの父・恭弘さんが1975年に立ち上げた「聖建築研究所」は香美市土佐山田町に所在。住宅、店舗、公共施設の設計や工事監理業務、そして古民家のリノベーションなどを手なっており、山本家の家族3人ともう1人、計4名の一級建築士が在籍している。「大きな建築には社会に影響を及ぼす力



2020年春のオーブンを控えている。土佐市の複合文化施設「つなーで」

事務所のデスクでCADを使って頭に想い浮かながら。

2020年春のオーブンを控えている。土佐市の複合文化施設「つなーで」

だ。

まだ2、3歳だった頃の幼少期、おぼろげな記憶の中にあるのは、父に連れられて行った「建築の現場」。剥き出しの柱や梁があるそこは直子さんにどうて一つの遊び場に過ぎなかつたが、高校生になって進路を考えた時、選んだのは父と同じ「建築士」を目指す道だった。「父の仕事部屋にあったアメリカの建築家、フランク・ロイド・ライトの写真集を見て衝撃が走つたんです。私もこんな建築を見つくてみたいと。そこから父の勧めもあって建築コースのある美術系の大学を目指しました」。そして東京造形大学に進学し、2年間は総合的なデザインを、後の2年間は建築を専門的に学んだ。しかし卒業してからももっと建築の勉強がしたいと、早稲田大学が夜間に設置した専門学校「芸術学校」でさらに2年間建築について学び、卒業後は東京の設計事務所で3年間勤務した。「毎日山手線に乗つて渋谷にある事務所に通勤していく、山が見えない生活が当たり前になつてしまつたんでしょうね。いつかは帰ろうと思つていた高知に帰る決断をしました」。そうして直子さん27歳の時高知に戻り、父・恭弘さんが所長を務める「聖建築研究所」に入つた。

東京でのめり込むように建築を学びそして生まれ育った高知へ帰郷

言われるでもなく自ら選んだ建築の世界。新しいものを「つくり」古くからあるものを「する」。自分の中にある建築物への思いを大切にしながら、いつか叶えたい夢に向かって邁進する一人の女性建築士の物語。

読者プレゼント

とさぶしからの贈り物

クイズとアンケートに答えて応募してや!

クイズ

高知県最古の酒蔵の名称は?

お待ちしています。

「とさぶし」
からの
贈り物

応募締切
2020年3月20日

- 読者プレゼントの応募は、1人1回とさせていただきます。
- プレゼントの発表は、商品の発送をもって代えさせていただきます。
- いただきました個人情報はプレゼントの発送のみに使用します。



松尾酒造
純米酒
山田太鼓
720ml

2名様

物部川の伏流水を仕込み水
に使用し、メロンやバナナの
ような香りとキレ味のよい酸
味が特徴の純米酒。すっきり
と淡麗辛口な味わいは、食中
酒としても最適。

3



岬観光ホテル
1泊2食付きペア宿泊券 1組

国定公園である室戸岬に建つ「岬観光ホテル」の平日限定のペア宿泊券。部屋からは息をのむような太平洋の絶景が見られる。

1



濱川商店
純米吟醸 美丈夫純麗
たまラベル 720ml

2名様

柑橘系の吟醸香で、キュンとした酸味と果実を連想させる爽やかさを持つ純米吟醸。米のふくらみや柔らかさとシャープなキレを兼ね備えた、美丈夫らしい味わい。

5

2

美馬旅館
新銘菓「左馬」

5名様

老舗「松鶴堂」との試行錯誤で生まれた美馬旅館オリジナルの銘菓。縁起の良い左馬に地元特産の生姜と宇治の抹茶を封じ込めたお干菓子。「美味しい料理と美しい風景を楽しむために、友達を連れてまた来ます！」。



とさぶしLINE@と友達なって、
読者プレゼントに応募しよう!

- ①スマホから左のQRコードを読み込んで、とさぶしLINE@と友達になる
- ②とさぶしLINE@より「とさぶしからの贈り物」応募フォームが届く
- ③応募フォームより、必要事項を明記し、読者プレゼントに応募する

*読者プレゼントの応募は「とさぶしLINE@」への登録もしくは、官製ハガキから応募できます。官製ハガキで応募される場合はお名前・発送先のご住所・お電話番号・ご希望のプレゼント番号・クイズの回答をご記入の上、下記の宛先まで締切日(2020年3月20日)必着でお送りください。 〒780-0081 高知市北川添10-15 株式会社ほっこうち



だんだん畑のそばで
地域の人とのふれあいを

仁淀川町南部の長者地区にある集落活動センター「だんだんの里」。その名の通りすぐそばにはだんだん畑（棚田）があり、山々と織りなす美しい景観が自慢。だがこの棚田、かつて耕作放棄地で「草がうつそう」と茂って埋もれていた。そう。そんな状況を打破し、景観を維持させつつ地域を活性化させようと、平成15年に地元住民によるボランティア団体「だんだんくらぶ」が発足。その一環として、だんだんの里を運営し始めたという。併設された農家レストランでは、地元の食材をふんだんに使った料理を提供。地区の高台にある星ヶ窪キャンプ場に「隕石が落ちてきた」という伝説を持つ池があり、それを模した「星ヶ窪カレー」もメニューの一つで、他にも名産のお茶などの物販や良心市もある。「長者地区の魅力を皆さんに発信したい」と奮闘を続ける皆さんの姿に、岡さんも思わず感銘を受けた様子。「美味しい料理と美しい風景を楽しむために、友達を連れてまた来ます！」。

高知大学地域協働学部
岡 知佳さん

徳島県美馬市出身。山間部での取材に、「故郷に近い景色がいっぱい、なんとなく懐かしい感じ」とノスタルジックな気持ちに。大学でもフィールドワークを中心に勉強中。



集落活動センター
だんだんの里

吾川郡仁淀川町長者乙2546-11
☎ 0889-32-1833

だんだんくらぶの活動を続ける中で、「長者地区で食事ができる場所が欲しい」という声を受け、2012年12月よりレストランを兼ねた集落活動センターをオープン。女性メンバーが中心となって運営しており、地元の人々はもちろん、地域外から多くの人々が訪れている。毎年11月の第1土曜に開催される「長者deキャンドルナイト」をはじめ、山間部ならではの景観を活かしたイベントも定期的に開催。



レストランでは日替わりの「だんだんランチ」やモーニング、定食などを用意。美味しいお茶とともに召し上がり。火曜と木曜限定で開かれる100円均一の良心市「愛菜野」や物販コーナーでお土産の購入もぜひ。

だんだんくらぶ副会長 だんだんの里代表
大野孝美さん



<https://tosabushi.com>



発行

高知県文化生活スポーツ部文化振興課

〒780-8570 高知市丸ノ内1丁目2番20号(本庁舎5階)

Tel 088-823-9793 Fax 088-823-9296

E-mail 140201@ken.pref.kochi.lg.jp

発行日:2019年12月27日(季刊)

企画 とさぶし編集委員会

制作 ほっとこうち

バックナンバーの入手方法

お近くに配布先がない場合は、送料分の切手を送っていただくと、受け取り次第、発送をいたします。

【送料】

1冊	140円
2冊	180円
3冊	215円
4・5冊	310円

6冊以上の場合は、一度ご連絡ください。

お問い合わせ・送付先は、

高知県文化生活スポーツ部文化振興課(上記)まで。



写真:須崎市教育委員会提供



このパンフレットは宝くじの収益金の一部で
作成しています。

LINE@でも情報配信中!



とさぶし

と友達になろう!